

平成25年度南砺市病院改革プラン検討委員会 会議録

日時 平成26年3月27日（木）13時30分から14時50分

場所 福野庁舎2階 201会議室

出席者 委員 長瀬啓介、杉山敏郎、大江浩、佐伯俊雄（代理 真草嶺信義）、西村静代、
大西毅彦、大塚千代、長谷川邦子

市長 田中幹夫

事務局 地域包括医療・ケア局 工藤義明、仲筋武智、（南砺市民病院）南真司、石岡威、
山崎義尚、（公立南砺中央病院）三浦利則、杉村稔（医療課）吉澤昇、氏家智伸

開会の挨拶 田中市長

本委員会は平成22年に策定した病院改革プランの点検・評価・公表を目的としている。特に今回の委員会では平成25年度決算見込、平成26年度予算について説明申し上げる。平成26年度からは消費税の引き上げや地方公営企業法の改正、診療報酬の改定に盛り込まれた入院医療における病床の機能分割といった病院運営にとって大きな要素が含まれている。更に今後策定される地域医療ビジョンにかかる取り組みと一体的・整合的に公立病院改革を進める新たなガイドラインが総務省から示される予定。南砺市としても2病院の方向性を今後打ち出す必要があると考えている。

平成25年10月17日・18日、南砺市において介護保険推進全国サミットを開催した。26年度の組織改変でも地域包括医療・ケアの充実を進めようとしている。これらの取り組みが保健・医療・介護・福祉の繋がりを作ることで市民の皆さんが安心して暮らせる地域を築くという風に思っている。この根幹である南砺市立2病院に関する改革プランについて活発な意見を頂きたい。

委員の委嘱

行政関係者の委員として異動により三谷民生部長から大西民生部長へ変更があったことを報告。学識経験者として議会より民生常任委員会から選出していたが、今回からは選出しない。机上の委嘱書をもって委員の委嘱とする。

委員長の選出

昨年に続き事務局より大江委員を推薦。引き受けていただく。

議題

(1) 公営企業法改正に伴う平成26年度病院事業への影響

資料1について事務局（医療課）から説明を行う。

(2) 2病院の収支状況について

資料2-1、2-2、3、4-1、4-2について事務局（両病院）から説明を行う。

【質疑】

- 委員長 : 最近の収支状況等について質問はあるでしょうか。
- 委員 : 中央病院の件で、人件費の伸び、材料費の伸びよりも収益の伸びが低い。このやり方ではどんどん全体の収益構造が悪くなるように見えてしまう。
- 事務局 : 平成25年度は医師・看護師が増えたことで人件費が増え、収支が5千万ほど悪くなっているが、これは特に前半は前年度の影響が出ているもので、後半からは収支は良くなってきている。人件費が増えたことがすぐに収益には反映していない。
- 委員 : 人件費だけではなく、材料費も増えているのは全体の収益から見るとどうか。
- 事務局 : 中央病院は収益の伸びより材料の伸びは小さくなっている。
- 委員長 : 平成26年度では材料費の伸びより収益の方が伸びるということか。
- 事務局 : 平成25年度決算においても全体を見れば、材料費の伸びを収益が上回っている。
- 委員 : タイミングのずれで、収益が反映されるのは26年度になるだろう。また現状では外科の医師が着任されたということで、収益には結びつきにくいのだと思われる。今後はどのように医師を確保していくのかということが重要だ。
- 委員長 : 資料3によると南砺中央では3月3日現在で医師の増が3、減が2とあるがこれは何が増えるのか。
- 事務局 : 内科医が増えるもの。
- 委員 : 南砺市の一市民として見ると、同じような病院が2病院あるのは効率が悪い。私が以前務めていた病院は第1病院と第2病院があって急性期と慢性期で機能を分けていた。南砺市の場合もそうになっていくのかと思ってこの会議に参加したのだが、そういう方向の話しにはなかなかならないようだ。この点についていかがか。
- 事務局 : 機能分担という面でなかなか状況は変わっていない。中央病院においては慢性的な人員不足であり、そこまで踏み込む余裕がないということと、6階病棟と産科の扱いをどうするかということがあり、今後議論を重ねていかなければならない。従来は病棟ごとに機能を見直すことが出来なかったが、制度改革により今回から出来ることになる。中央病院に関しては、城端・福光地域の一次医療を補完しており、地域の急性期を担う役割は残したい。より良い形で機能分担を考えていけるのではないかと考えている。
- 委員長 : 制度改革というのは10月から始まる病床機能報告制度のことだと思われるが、市民病院において看護師・理学療法士を増やしているのは、そういった部分に力を入れていきたいという意識の表れだと捉えている。中央病院において内科医を増やしたのも同様であり、少しずつ方向性が表れているのではないか。
- 事務局 : 2つの病院をどういう機能分担にするかということは、南砺市民病院ではなく地域包括医療・ケア局が決めるべきことである。改革プランについては総務省の主導で行われ、私は6年ほど前から対応しているが、これはそれまでの放漫財政を問わ

れたのだと思う。財務体制の強化やベッド稼働率の向上、病院再編ネットワークなどについて強い指導があり、両病院は襟を正して改革をやってきた。今後の病棟の届出制という話はこれまでの病院改革プランとは違う話。最終的には市立病院は住民を守る、地域包括ケアを作り上げることが最終的な目標。今後どうするかということに関しては、南砺市民病院は超急性期であろうとは思ってはいないが、砺波総合病院だけで全てまかなえるとも思っていない。多くの疾患を抱える人たちを支えるには大きい病院だけではできない。直し支える医療を両方しなければならぬ。だから医師や看護師だけでなくリハビリも必要。急性期が終われば回復期に移り在宅に早く帰してあげて、在宅でも支えてあげたい。大枠ではそう考えている。ただ市としてもっと効率的にと言われれば、委員の皆さんで議論していただいて考えていかなければならない課題ではないかと思う。

事務局 : 棲み分けという話しは以前から出ているが、なかなかそこへ踏み込めない苦しい状況が続いている。今回、病棟毎に届出という話しが出ていることで何かが変わるのではないかと考えている。内科の医師に関しては苦勞して、地域の急性期を守るのが精一杯である。やりたくても人の数で制限されているのが現状。

委員 : 最大限努力をされているが、実際に地域の需用を南砺市民病院だけでカバーしきれものではない。中央病院においては人的な問題がある。両病院の話を聞いて、キャパシティを増加させないと機能棲み分けの話しに進んで行けないと感じている。そのうえで何ができるのか適切に地域包括医療・ケア局で話しを進めていただきたいというのが一医師としての願いである。

委員長 : 管内でも一般病床から療養病床に切り替えたというものがある。10月から一般と療養の届出をどういう方向で行くのが始まってくるので、中央病院の休床の部分はどうするのか検討いただければと思う。

委員 : 確認ですが、中央病院の病床が一部稼働していないのは人的な問題ですか。

事務局 : そうです。

委員 : 中央病院が人的な問題で苦しんでいると聞いているが、地域の需用があるにもかかわらず、その病院で働きたいかという視点で見るときには急性期中心の教育を受けてきた医師は定着しにくい。地域でも医師の確保をする活動をしているが、より一層養成するような方向性を市として作っていただきたい。

事務局 : 医師の確保についてはいくつかの課題がある。大学と地域の基幹病院が協力しながら地元に残りたい初期研修医を確保していくことが重要。ただ、初期研修医はまだいるが、後期研修医師は残らないのが現状である。更には専門医では全てをカバーできないことから、総合診療医を増やしたい。総合診療医は地域の中小病院で育てるしかない。南砺市民病院では26年度から初期研修医と後期研修医のための研究研修センターを立ち上げる。総合研修医になりたい人に来てもらい、納得した上で残ってもらう。現在4人の初期研修医のうち3人が後期研修医として残る予定。

- 委員長 研修医だけでなく、病院で実習を受ける学生の中からも残ってもらうことを期待している。
- 事務局 市民病院では5年生の実習生20名のうち6年生の選択実習5名の枠はすぐに埋まった。努力しないと人は育たない。
- 委員 先ほどの南砺市民病院の話しに関連する事例を紹介したい。富山県の場合、研修医自体は人口当りで見てもそんなに少なくはないが、初期研修が終わったあと後期研修に移る際に4割弱が他の地域に行く。初期研修から後期研修に繋いでいく制度が必要だ。
- 委員 大学に初期研修が終わった者が集約されており、地域の医療を支えることに結びつきにくいのが現状である。この現状を根本的に変えるか、若しくは集まっている現状のまま地域を支えていく。この2点を同時に押さえることが重要。大学側も現状に満足しているわけではない。

(3) その他

資料5、6について事務局（医療課）から説明を行う。

【質疑】

- 委員長 これまでの説明に関して質疑はないか。
- 委員 医師を確保するのはいいが、その代償は大きいと感じている。市民としては内科の医師がいればよいと思うが、繰入金など大きなお金がかかっている。今後はどうなるのか。
- 事務局 先ほど申し上げた基準外繰入について、資本的支出に伴う公債費の償還金のうち1/2～2/3は交付税として補てんされる。また救急指定病院に対しての繰入や医師の研修に関しても交付税がある。ただ公債費の割合が大きいので、その償還に際し金額の増減の影響が出る。
- 委員長 医師が増えて、患者が増えて、外来が増えるというのではなく、本来は減るのが望ましい。本年度南砺市では県の先頭を切って医療費分析が始まった。分析によっていろんなことが分かってくる。医療費の適正化を図る意味でも進めていただきたい。
- 委員 優秀な病院は繰入金がなく、儲かっているところさえあるが、南砺市では4億程度出費している。今後、交付税が減っていくときにどうなるのか。どの程度効率化を図っていくのかは市長の判断。南砺市全体としてどれだけの医療基盤が必要なのか。2病院の有り方を決めてほしい。
- 委員 城端に住んでいるが、どの病院へ行ってもそんなに混んでいない。みんな結構元気なのではないかと感じているが、やはり病院があることで安心に繋がる。多少お金がかかっても病院は維持してほしい。

(3) 今後スケジュール

今後のスケジュールについて事務局（局長）から説明を行う。

大江委員長（厚生センター所長）が、砺波医療圏としてのスケジュールについて説明を行う。

閉会の挨拶 工藤管理者

本日は貴重な意見をたくさん頂いた。今後の病院運営に役立てて参りたい。国から新たな医療制度改革が示されており、これは病院経営の根幹に係わる大きな問題と認識している。両病院と市が一緒になって考え、県の指導も頂きながら早期に対応策をまとめていきたい。今後とも南砺市の病院改革に意見を頂きたい。

終了 14時50分